

欽定英訳聖書における身体語彙

Mouth を用いた表現

盛 田 義 彦

On Expressions by Using Bodily Vocabulary in the
Authorized Version of the Bible : *Mouth*

Yoshihiko MORITA

Abstract

The object of this paper is to observe a bodily word *mouth* in the Authorized Version from the viewpoint of its behavior and meanings. Our observation is also on set phrases including *mouth*.

The main findings of this study are as follows:

1. there is not a sample of *mouth* used as a verb.
2. all the samples of the nominative *mouth* are used only as a subject.
3. the objective *mouth* often collocates with a verb *open*.
4. the objective *mouth* often collocates with a preposition *out of* as well as *of*.
5. *mouth* often collocates with determiners *the* and *his* in the front position.
6. *mouth* often collocates with a preposition *of* in the back position, and 'the N of' is a popular pattern.
7. most of the samples of *mouth* have the meaning of a physical tool of speaking.
8. a set phrase, 'the roof of one's mouth' is not a Hebrew expression but English.
9. a set phrase, 'mouth to mouth' is originally from a Hebrew phrase, but it is a little modified by an English sense.

1. はじめに

初期近代英語期の代表的な文語資料である欽定訳聖書は基本的に翻訳文書である。しかしながら、Tyndale 訳以来の伝統を引き継いだその英語は1611年の初版出版当時も今日と同様に会堂に参集した会衆の耳を通して荘重な宗教意識を持たせるに足るものであったと思われる。この英語は長年月の使用を通じて英語話者のところに深く刻まれることとなった。その結果、欽定訳聖書は綴り字の現代化、誤字の訂正などはあったものの、ほとんど初版のままの英語でほぼ400年間に渡って出版されつづけている。最近ではペーパーバックの極めて廉価な版が巷で売られている。

本稿では欽定訳聖書で用いられた身体語 *mouth* がどのように用いられているのか、その振る舞いを調査するとともに、*mouth* がどのような意味で使用されているのかを考察し、更に、*mouth* が含まれる慣用表現を選び出してその起源などを探査する。

2. Mouth の使用頻度

2.0 総数

Chadwyck-Healey 社の English Bible CD-ROM を用いて欽定訳聖書の身体語 *mouth* の使用頻度を検索すると次の表1のデータが得られる。

Table 1 Frequency of *mouth/mouths/mouthes* in AV

	Old Testament (以後 OT)	New Testament (以後 NT)	total
<i>mouth</i>	393 (注39要約1)	76 (注4要約1)	469
<i>mouths</i>	3	0	3
<i>mouthes</i>	14 (注4)	6 (要約1)	20
total	410	82	492

表1は欄外の注記や各章の要約に出現する用例数をも含んでいる。それらを除いてAV本文の用例数を算出すると表2のようになる。なお、本論文作成のためにCD-ROMと共に使用したJames Strongのコンコードンスでは外典部分は除外されているので本稿でも調査対象から除いてある。

2.1 実数

Table 2 Revised Data of Frequency of *mouth/mouths/mouthes* in AV

	Old Testament	New Testament	total
mouth	353	71	424
mouths	3	0	3
mouthes	10	5	15
total	366	76	442

AV本文には *mouth* が424例、*mouths* と *mouthes* がそれぞれ3例、15例あり、合計442例ある。なお、*mouths* と *mouthes* は複数形で属格の用例はない。動詞として用いられた用例はいずれの形についても無い。

3. Behavior

3.0 前節で得られた442の用例を統語的観点から分類すると以下のようなになる。

3.1 主格をとる *mouth(es/s)*

主格の *mouth(es/s)* は表3に示すような分布をなす。

Table 3 Frequency of *mouth(es/s)* in the Nominative Case

	mouth		mouth (es/s)		total
	OT	NT	OT	NT	
主語	59	9	0	1	69
補語	0	0	0	0	0
total	59	9	0	1	69

主語として用いられた *mouth(es/s)* は69例、全用例のおよそ16%になる。補語としての用例は無い。

3.2 目的格をとる *mouth(es/s)*

目的格をとる *mouth(es/s)* を動詞の目的語と前置詞の目的語に分けて数えると表4になる。

Table 4 Frequency of *mouth* (*es/s*) in the Objective Case

	mouth		mouth (<i>es/s</i>)		total
	OT	NT	OT	NT	
動詞の目的	66	12	5	1	84
前置詞の目的	228	50	8	3	289
total	294	62	13	4	373

目的格として用いられた *mouth* (*es/s*) は373例、全用例の84%になる。その内、動詞の目的語になっているものは84例、全用例の19%、目的格の用例の23%になる。従って、目的格の4分の3強、77%が前置詞と共に用いられている。

3.3 *mouth* (*es/s*) を目的語とする動詞

動詞の目的語として用いられた84例について、どのような動詞と共に用いられているかを頻度の多い順に表5に示す。

Table 5 Frequency of Verbs Taking *mouth* (*es/s*) as their Object

	mouth		mouth (<i>es/s</i>)		total
	OT	NT	OT	NT	
open	35	10	1		46
keepe	3				3
make	3				3
put	3				3
shut	1		2		3
stop	2			1	3
couer	2				2
fill	2				2
haue			2		2
giue	1	1			2
let	2				2
suffer	2				2
disobey	1				1
hate	1				1
leauē	1				1

欽定英訳聖書における身体語彙 *Mouth* を用いた表現

mark	1				1
muzzell		1			1
refraine	1				1
satisfy	1				1
set	1				1
teach	1				1
touch	1				1
wipe	1				1
total	66	12	5	1	84

表5が表しているように、*mouth(es/s)*を目的語に取る動詞の半分は *open*(50%)となっており、他の半分にはさまざまな動詞があるが、いずれも頻度が低い。

3.4 *mouth(es/s)*を目的語とする前置詞

*mouth(es/s)*を支配する前置詞を、名詞を修飾する前置詞句、動詞を修飾する前置詞句、形容詞を修飾する前置詞句、*be*動詞の補語になる前置詞句の4種類に分けて以下に示す。

3.4.1 名詞を修飾する前置詞句

Table 6 Frequency of Prepositions Taking *mouth(es/s)* as their Object(modifying nouns)

	mouth		mouth(es/s)		total
	OT	NT	OT	NT	
of	43	3	0	0	46
in	4	0	0	0	4
by	2	0	0	0	2
from	1	0	0	0	1
total	50	3	0	0	53

表6は名詞を修飾する前置詞句はその用例のほとんど(87%)が前置詞 *of*の句であることを示している。その他の前置詞句は種類も用例も少ない。

3.4.2 動詞を修飾する前置詞句

Table 7 Frequency of Prepositions Taking *mouth* (es/s) as their Object(modifying verbs)

	mouth		mouth(es/s)		total
	OT	NT	OT	NT	
out of	32	21	1	2	56
in	31	3	2	0	36
with	24	4	2	0	30
at	14	1	0	0	15
from	14	0	0	0	14
to	13	1	0	0	14
by	6	7	0	0	13
vpon	12	0	0	0	12
into	3	2	1	0	6
on	1	1	0	0	2
before	1	0	0	0	1
of	0	1	0	0	1
ouer	1	0	0	0	1
within	1	0	0	0	1
ϕ	6	0	0	0	6
total	159	41	6	2	208

表7から、動詞を修飾する前置詞句で用いられる前置詞は *out of* が最も多く(27%)、つぎに *in*(17%)、3番目が *with*(14%)、その他の前置詞はあまり頻度が高くないことが判る。なお、最後の行の ϕ は前置詞の省略を示し、具体的には *mouth to mouth* という慣用句の最初の *mouth* に関わるものを指している。

3.4.3 形容詞を修飾する前置詞句

Table 8 Frequency of Prepositions Taking *mouth* (*es/s*) as their Object(modifying adjectives)

	mouth		mouth (<i>es/s</i>)		total
	OT	NT	OT	NT	
in	2	0	0	0	2
to	1	0	0	0	1
with	1	0	0	0	1
total	4	0	0	0	4

形容詞を修飾する副詞相当の前置詞句は上の表が示すように4例だけである。

3.4.4 Be 動詞の補語となる前置詞句

Table 9 Frequency of Prepositions Taking *mouth* (*es/s*) as their Object(complement of *be*)

	mouth		mouth (<i>es/s</i>)		total
	OT	NT	OT	NT	
in	14	5	2	1	22
with	3	0	0	0	3
as	1	1	0	0	2
for	1	0	0	0	1
in stead of	1	0	0	0	1
vpon	1	0	0	0	1
total	21	6	2	1	30

表9から、be 動詞の補語となる前置詞句では *in* がよく用いられ(73%)、その他のものは頻度が低いことが判る。

4. Mouth (*es/s*) の修飾部

4.0 Mouth (*es/s*) を修飾する要素

Mouth (*es/s*) はどのような語句によって修飾されているのであろうか。前置修飾と後置修飾に分けて観察する。

4.1 前置修飾

Mouth(es/s) を前置修飾する要素を表10に示す。

Table10 Frequency of Adjectivals Modifying *Mouth(es/s)* from the front position

	mouth		mouth(es/s)		total
	OT	NT	OT	NT	
冠詞					(105)
a	3	2			5
the	76	22	1	1	100
人称代名詞					(282)
my	67	7			74
thy	46	3			49
his	68	20			88
her	17	1			18
our	1	1			2
your	7	1			8
their	28	4	9	2	43
関係代名詞					(6)
whose	4	1		1	6
名詞の属格					(23)
Balaams	1				1
caues	1				1
fooles	1				1
graues	1				1
holes	1				1
horses				1	1
Kings	2				2
lyons	1		1		2
mans	3				3
sackes	3		1		4
welles	6				6
形容詞					(18)
euery	2		1		3
flattering	1				4

欽定英訳聖書における身体語彙 *Mouth* を用いた表現

froward	3			3
one	1	1		2
open	1			1
owne	4	2		6
same		1		1
wide	1			1
修飾なし	6	1	1	8
total	356	68	13	442

表10から、*mouth* につく不定冠詞 *a* の頻度数は非常に少ないことが判る。人称代名詞の *her* や複数の *our*, *your* も頻度が低い。関係代名詞 *whose*、名詞の属格もあまり高くない。属格の中では「井戸」を意味する *wells* の数字が比較的大きい。形容詞も頻度の高いものはないし、種類も多くはない。結局、前置される修飾語句としては *the* の頻度が高く、他の要素は低いことが判る。

4.2 後置修飾

Mouth(es/s) を後置修飾する要素を表11に示す。

Table11 Frequency of Adjectivals Modifying *Mouth(es/s)* from the back position

	mouth		mouth(es/s)		total
	OT	NT	OT	NT	
副詞					
<i>thereof</i>	2				2
現在分詞	1				1
関係詞節					
<i>that</i>	2		1		3
<i>which</i>	1				1
前置詞句					
<i>of</i>	70	15	1	1	87
total	76	15	2	1	94

後置修飾の種類は、表11が示すように、形容詞性を持った副詞の *thereof* によるもの、現在分詞によるもの、関係代名詞を用いた形容詞節、更に前

置詞句がある。前置詞句は of に導かれるもののみである。of の前置詞句以外は頻度数がきわめて小さい。後置修飾の of の節87例は前節の前置修飾の the と連動している。すなわち、the N of のパターンで用いられている。

5. Mouth の意味

5.0 Mouth はどのような意味で用いられているのであろうか。

5.1 語る道具としての「口」

言葉を語るための口を意味する例を示す。

- (1) Ps 145 : 21 My mouth shall speake the praise of the LORD :
(わたしの口は主を賛美します¹⁾。)

mouth(es/s) の用例の大部分が「言葉を語るための口」を意味している。

5.2 飲食する道具としての「口」

食べたり飲んだりする機能を意味する例を示す。

- (2) Eze 3 : 2 So I opened my mouth, and hee caused me to eate that roule.

(わたしが口を開くと、主はこの巻物をわたしに食べさせて、)

5.1 節の意味に続いて多いのがこの「飲食をするための口」の用例である。

5.3 人の生体器官としての「口」

前の二節の意味には限定せず、人の器官としての口を意味する例を示す。

- (3) Ps 137 : 6 ..., let my tongue cleave to the roofo of my mouth ;
(わたしの舌は上顎にはりつくがよい)

「舌が上顎にはりつく」というのは6.3で示すように「言葉を語れない状況をつくる」ことであり、結果から見れば5.1の意味につながるものである。

5.4 「証言」を意味する「口」

語った結果、「証言」を意味することになる例を示す。

- (4) De 17: 6 ...: *but* at the mouth of one witness he shall not be put to death.

(一人の証人の証言で死刑に処せられてはならない。)

5.5 歌を歌うための「口」

口は言葉を語るとともに歌も歌うことができる。そのような例を示す。

- (5) Ps 40: 3 And he hath put a new song in my mouth,

(わたしの口に新しい歌を...授けてくださった。)

5.6 笑うための「口」

笑う際にも口は重要な役目をもつ。その例を示す。

- (6) Ps 126: 2 Then was our mouth filled with laughter,

(そのときには、わたしたちの口に笑いが...満ちるであろう。)

5.7 呼吸器官としての「口」

鼻とともに、口は息をする機能をも持つ。その例を示す。

- (7) 2Th 2: 8 ...,whome the Lord shall consume with the spirit of his mouth,

(主イエスは彼をご自分の口から吐く息で殺し、)

5.8 愛情を表現する道具としての「口」

言語以外の社会的行為を口は果たす。その例を示す。

- (8) Sol 1: 2 Let him kisse mee with the kisses of his mouth:

(どうかあの方が、その口のくちづけをもってわたしにくちづけし
てくださるように。)

5.9 武器としての「口」

歯を内側に持つ口は武器としても使われる。その例を示す。

- (9) La 3: 46 All our enemies haue opened their mouthes against vs.

(敵は皆、わたしたちに向かって大口を開く。)

5.10 獣や鳥の「口」

人以外の口に言及する個所は少なくない。その例を獣と鳥でそれぞれ一

例を示す。

- (10) 1Co 9 : 9 Thou shalt not muzzle the mouth of the ox that treadeth out the corn :

(脱穀している牛に口籠をはめてはならない)

- (11) Ge 8 : 11, and loe, in her mouth was an Olive leafe pluckt off :

(見よ、鳩はくちばしにオリーブの葉をくわえていた。)

鳥のくちばしを *mouth* と表現するのはやや奇異な感じがするが、これはヘブル語の直訳である。なお、AVには「くちばし」を表すのに *beak* も *bill* も用例がない。

5.11 大地の「口」

地面の割れ目は口として表現される。その例を示す。

- (12) Nu 16 : 32 And the earth opened her mouth,

(地は口を開き、)

5.12 入口や出口の「口」

洞穴や墓の出入り口を意味する用例が20以上ある。一例を示す。

- (13) Jos 10 : 18 Roule great stones vpon the mouth of the caue,

(大きな石を転がして、洞穴の入り口をふさぎ、)

5.13 井戸や袋の開口部の「口」

井戸の上部や袋の口を意味する用例がそれぞれ6ずつある。一例ずつ示す。

- (14) Ge 29 : 2 ... : and a great stone was vpon the well's mouth.

(井戸の口の上には大きな石が載せてあった。)

- (15) Ge 44 : 2 And put my cup, ..., in the sack's mouth of the youngest,

(それから、わたしの杯、... を、一番年下の者の袋の口に、入れておきなさい。)

5.14 河口の「口」

河口を意味する口の用例が一つある。それを示す。

- (16) Isa 19:7 The paper reeds ... , by the mouth of the brookes,
... shal wither,
(ナイルの河口のいぐさも．．．枯れ、)

6. Set Phrases

6.0 Mouth(es / s)を含む慣用句

Mouth(es / s)を含む慣用的表現を取り出して、その意味や起源などについて調査する。

6.1 The mouth of the LORD

「主の口」という表現が6例ある。一例を見よう。

- (17) Isa 40:5... : for the mouth of the LORD hath spoken it.
(主の口がこう宣言される。)

この the mouth of the LORD という句はヘブル語ではつぎのようになっている。

- (18) פִּי יְהוָה

(Jahweh the mouth of)

the mouth of the LORD はヘブル語の直訳である。「主の口が語る」というのは「主が語る」ことであり、具体的には預言者が語る時に用いられる表現である。この表現は現代語訳の Revised Standard Version(以後 RSV)でも維持されている。また、The Jerusalem Bible(以後 JB)では the mouth of Jahweh として維持し、更に New International Version(以後 NIV)でも the mouth of the LORD と表現している箇所がある。このように現代英語訳でもこの句を使用しているということは、この表現は少なくとも聖書英語という分野では set phrase として現代英語に根を下ろしたと言えよう。また、the mouth of the LORD の類例として、the mouth of the wicked (4例)、the mouth of foolies(2例)、the mouth of the foolish(1例)、the mouth of the iust(1例)、the mouth of the righteous(1例)などがある。なお、speak という動詞と連動するものが5例ある(下の用例箇所中 Isa 62:2 以外)。6つの用例箇所を以下に示しておく。

- (19) 用例箇所 : Isa 1:20, Isa 40:5, Isa 58:14, Isa 62:2, Jer 9:12, Mic 4:4

6.2 the words of one's mouth

「わたしのことば」という句を *my words* と言わずに「わたしの口から出る言葉」*the words of my mouth* のようにする迂言的な表現が19例ある。一例を見よう。

(20) De 32:1 And heare, O earth, the words of my mouth.

(地よ、聞け、わたしの語る言葉を。)

the words of my mouth にあたるヘブル語原典はつぎのようになっている。

(21) : אִמְרֵי־פִי

(my mouth words of)

この表現はヘブル語の直訳であることがわかる。この直訳は表現に荘重さを与える効果があると思われる。他の用例でそのような効果を持つとは思われないものがあるが、ヘブル語原典では全用例個所が韻文で書かれているところであり、もともとはそのような効果が期待されていたのだと思われる。RSVでは該当個所すべてでこの表現を受け継いでいる。JBではこの句を用いたものは一カ所だけ(Ps 19:14)で他は *what I say* などの別の表現をしている。NIVでは該当個所中11個所で *the words of one's mouth* の表現を採用しており、他の個所ではJBと同様に *what I say* や *his speech* などという訳にしている。このことから、*the words of one's mouth* という句は現代英語にも受け入れられた聖書英語の表現だと言えよう。用例個所は以下の通りである。

(22) 用例個所: De 32:1, Job 8:2, Job 23:12, Ps 19:14, Ps 36:3,
Ps 54:2, Ps 55:21, Ps 78:1, Ps 138:4, Pr 4:5, Pr 5:7,
Pr 6:2A, Pr 6:2B, Pr 7:24, Pr 8:8, Pr 18:4, Ec 10:12,
Ec 10:13, Jer 9:20.

6.3 the rooffe of one's mouth

「口の屋根」という奇妙な表現が5例ある。一例を見よう。

(23) Eze 3:26 And I will make thy tongue cleave to the rooffe of thy mouth,

(また、わたしはあなたの舌を上顎につかせ、)

「舌を上顎につかせる」というのは「ものを言えないようにする」の意味

である。すなわち、the roofe of one's mouth とは palate 「口蓋」のことである。ヘブル語ではつぎのようになっている。

(24) אֶל-חֹכֶךָ

(your palate to)

このことから the roofe of one's mouth という表現はヘブル語の直訳ではないことが判る。palate を the roofe of mouth と言い換えたものである。下に示す他の用例個所もすべて palate を表す 1 語を用いており、mouth にあたる語は使われていない。また、5 例中 4 例が cleave という動詞と連動している。但し、そのうちの 1 例 (La 4:4) は「乳飲み子の舌が渴いて上顎につく」という文字通りの意味で使われている。RSV では該当個所の 4 箇所でのこの表現を使用している。JB では一個所 (Eze 3:26) でこの表現を踏襲しているが、他の個所では his palate などの別の表現をしている。NIV では該当個所の一例 (Sol 7:9) を除いて the roof of one's mouth の表現を用いている。上記のことから、この表現はヘブル語の影響ではなく、palate を庶民に解りやすくするための工夫であり、この言いかえは今日の聖書英語にも生きていることが判る。

(25) 使用個所 : Job 29:10, Ps 137:6, Sol 7:9, La 4:4, Eze 3:26.

6.4 at the mouth of witnesses

「証人の口で」という表現は何を意味するのであろうか。一例を見よう。

(26) De 19:15 ... : at the mouth of two witnesses, or at the mouth of three witnesses, shall the matter be established²⁾.

(二人ないし三人の証人の証言によって、その事は立証されねばならない。)

「証人の口」とは結局「証言」testimony の意味である。ヘブル語原典ではどのように表現しているのであろうか。

(27) עַל-פִּי שְׁנַי עֵדִים אִוּ עַל-פִּי שְׁלֹשָׁה-עֵדִים

(witnesses three mouth of at or witnesses two mouth of at)

原典でも「口」を使用しており、AV 訳はヘブル語の直訳であることが判る。この表現の用例は 4 あるが、すべて申命記からである。現代語訳の RSV では the evidence of two/three witnesses とし、JB では the evidence

of two witnesses or three および the word of two witnesses or three としており、mouth は使用していない。NIV でも mouth は使わず testimony にしている。このヘブル語起源の表現は現代英語には引き継がれなかったと判断できる。

(28) 用例箇所：De 17:6A, De 17:6B, De 19:15A, De 19:15B.

6.5 with one mouth

「一つの口で」とは何を意味するのであろうか。一例を見よう。

(29) 1Ki 22:13 ..., the words of the prophets declare good vnto the King with one mouth:

(預言者たちは口をそろえて、王に幸運を告げています。)

「一つの口で」というのは「口をそろえて」、「異口同音に」の意味である。ヘブル語原典を見よう。

(30) פה-אחד

(one mouth)

AV は原典の直訳と言えよう。この表現は *OED* によれば、ヘブライ語法である³⁾。RSV では mouth は使わず accord や voice にし、JB では man speaking favourably や voice にし、mouth は使っていない。NIV では一個所では全く別の表現をしているが、もう一個所では with one ... mouth の表現を用いている。

このことから、この句は現代英語でもささやかながら生き延びていると言えよう。

(31) 用例箇所：1Ki 22:13, Ro 15:6.

6.6 mouth to mouth

「口への口」とは何を意味するのであろうか。一例を見よう。

(32) Jer 32:4 And Zedekiah ... shal speake with him mouth to mouth.

(ゼデキヤは...直接尋問される。)

この表現は「口と口で」、「面と向かって」の意味である。好意のある状況であれば「親しく」にもなり、好ましくない状況であれば「直接に」や「厳しく」の意味になる。*OED* によればこの表現はヘブライ語法である⁴⁾

が、原典はどのように表現しているのでしょうか。

(33) עַם-פִּי וְדַבֵּר-פִּי

(his mouth with his mouth and he will speak)

ヘブル語表現では前置詞は *with* を意味するものであり、*to* の意味はない。しかし、*mouth with mouth* という英語に訳すと異なった意味になってしまうので、AV では意識をしたと言うことであろう。従って、*OED* の言う「ヘブライ語法」は文字通りのものではなく、英語の発想も入っている表現だと言える。

RSV では下記の用例中、一個所は AV を引き継ぎ、他の2個所では *face to face* としている。JB ではすべて *face to face* にし、NIV でも同様に *face to face* としている。このことから、この表現は現代英語にかろうじて残ってはいるものの、*OED* の言うように使用されることの少ない表現だと言えよう。

(34) 用例個所：Nu 12:8, Jer 32:4, Jer 34:3.

6.7 lay one's hand vpon / on one's mouth

「手を自分の口に当てる」という表現の意味は何であろうか。一例を見よう。

(35) Job 40:4 I wil lay my hand vpon my mouth
(わたしはこの口に手を置きます。)

ヨブは神からの言葉を聞いて悔い改め、「口に手を当てましょう」と言うのであるから、「口に手を当てる」とは「語ることを止める」ことである。ヘブル語原典はどのように表現しているのでしょうか。

(36) לְמוֹ-פִי יָדִי שָׁמַתִּי

(my mouth upon I will lay my hand)

AV は原典の直訳である。下記の用例についてみると、RSV は AV を基本的には引き継いでいるが、動詞は *lay* も *put* もあり、前置詞は *upon* ではなく *on* にしている。JB では動詞に *put* を使うこともある。また、*hand* ではなく *finger* を使うこともあり、*mouth* ではなく *lips* を使うこともある、前置詞は *on* も *over* も *to* もある。NIV は RSV のように AV を引き継いでいるところもあれば、動詞を *put* に、前置詞を *over* にして AV の

類似になっているところもある。また、be quietのように意識にしているところ、clap your handsのような別の解釈をしたところもある。総じて判断すれば、この表現も現代英語に引き継がれていると言える。

(37) 用例個所：Jg 18:19, Job 29:9, Job 40:4, Pr 30:32, Mic 7:16.

6.8 make a wide mouth

「広い口にする」とはどのような意味であろうか。用例を見よう。

(38) Isa 57:4 ...? against whom make ye a wide mouth, and draw out the tongue?

(誰に向かって大口を開き、舌を出すのか。)

「大口を開く」という日本語訳は文字通りの意味であろうか。make a mouth は「しかめ面をする」という慣用句であるが⁵⁾、この慣用句の亜種であろうか。後半の「舌を出す」というのは「相手を冷笑する」ことであるから、「大口を開く」には相手に対して悪感情を示す意味があることは確かである。ヘブル語原典を見よう。

(39) פֶּה תִּרְחִיבוּ

(a mouth open wide)

原典は「口を大きく開く」という一般的な表現をしているので、原典に基づけば、英語の make a mouth の意味を込めるのはやや過剰な解釈だと思われる。RSV では open your mouth wide とし、JB では making faces と訳して、make a mouth の意味に解釈し、NIV でも sneer として、make a mouth の意味に取っている。現代語訳はいずれも AV の表現を維持していない。従って、この表現は AV 限りの聖書英語ということになる。

(40) 用例個所：Isa 57:4.

6.9 put a word/words in one's mouth⁶⁾

「人の口に言葉を入れる」というのはアダムの創造を思わせる表現であるが、どのように使用されているのであろうか。一例を見よう。

(41) 2Sa 14:3... : so Ioab put the wordes in her mouth.

(ヨアブは語るべき言葉を彼女に与えた。)

「言葉を口に入れる」というのは「話す能力を与える」、「話させる」、「代弁させる」の意味である。上記の用例は Wycliff の1382年の用例として

OED に採例されたものと同じで、この表現の初出例である⁷⁾。ヘブル語原典ではどのようなになっているのであろうか。

(42) כְּפִיהָ : אֶת־הַדְּבָרִים יוֹאָב וַיִּשֶׂם

(her mouth into words the Joab put and)

AV は原典の直訳である。RSV では下記の全用例でこの表現を受け継いでいる。JB では語順の移動などはあるものの全用例でこの表現を用いている。NIVではwordの代わりに what や message を使ったりしたところもあるが、AV を引き継いだものが6例ある。従って、この表現は Wycliff 以降、現代英語まであまり変化を経ずに引き継がれた表現だと言える。

(43) 用例箇所 : Nu 22:38, Nu 23:5, Nu 23:16, De 18:18, 2Sa 14:3, 2Sa 14:19, Isa 51:16, Isa 59:21, Jer 1:9.

6.10 speak by the mouth⁸⁾

「口で話す」という冗長な表現は何を意味するのであろうか。一例を見よう。

(44) Lu 1:70 As he spake by the mouth of his holy Prophets, ...
(聖なる預言者たちの口を通して語られたとおりに。)

「口を通して話す」ということは「(預言者に)語らせる」、ないし「(預言者の言葉を)引用する」という意味である⁹⁾。「口」を agent(動作主)と感じさせ、spoken by the mouth と同意であるように思われる。事実、2Ch 36:22には the word ... spoken by the mouth とある。ギリシャ語原典ではどのように表現しているのであろうか。

(45) καθὼς ἐλάλησεν διὰ στόματος

(as he spoke through / by means of mouth)

原典では「口」が agent と感じさせるような表現にはなっていない。RSV では AV を踏襲して下記の用例箇所すべてで by the mouth とし、JB では by the mouth は1例、through を用い mouth を使わないもの3例、NIV では by を使うが mouth は使わないもの1例、through を使い mouth を使わないもの2例、through the mouth とするもの1例、となっている。結局、speak by the mouth は現代英語にも引き継がれた聖書英語と言えよう。

(46) 用例箇所：2Ch 36:22, Lu 1:70, Ac 1:16, Ac 3:21.

6.11 write at one's mouth

「口のところで書く」とは何を意味するのであろうか。一例を見よう。

(47) Jer 36:17 How didst thou write all these words at his mouth?
(どのようにして、このすべての言葉を書き記したのか教えてください。
口述ですか。)

この句の表す意味は「口述筆記する」ことである。ヘブル語原典ではどのような表現をしているのであろうか。

(48) מִפִּי כְּתַבְתָּ

(from his mouth ... did you write)

ヘブル語では英語の from にあたる前置詞を使用している。at は誤訳の可能性もある。他の箇所(Jer 36:4, Jer 36:6, Jer 36:32)では同じヘブル語を write from the mouth としている。RSV では at one's dictation などとし、JB では at the dictation とし、NIV では dictate や dictation を用いた訳文を採用している。結局、この表現は、write from the mouth も同様であるが、現代英語の訳文には採用されなかった。従って、この表現は現代の聖書英語の set phrase とは認められない。なお、用例箇所は以下の通りである。

(49) 用例箇所：Jer 36:17, Jer 36:27, Jer 45:1.

7. まとめ

本小論では欽定訳聖書で用いられている身体用語の一つ、mouth(es /s) について、その振舞いと意味を観察し、加えて mouth を含む慣用表現の起源や存続の様子を調査してきた。以下にこの研究作業の主な知見を要約して本稿を終えよう。

1. mouth には動詞としての用例が無い。
2. 主格の mouth は文の主語としての用法のみを持つ。
3. 目的格の mouth は動詞については open と、前置詞については out of や of とよく共起する。
4. mouth を前置修飾するものは決定詞の the と his が多い。

5. *mouth* を後置修飾するものの多くは *of* の前置詞句で、‘the N of’ のパターンがよく見られる。
6. *mouth* の用例のほとんどが「話をする道具としての口」の意味を表している。
7. ‘the roof of one’s mouth’ という慣用句は *palate* の言い換えであって、ヘブライ語の影響ではない。
8. ‘mouth to mouth’ という慣用句は *OED* が指摘しているようにヘブライ語起源であるが、ヘブライ語通りであれば *with* になるところを英語の感覚で *to* に変更されている。
9. ‘speak by the mouth’ という慣用表現は「預言者に語らせる」ことで現代語訳に引き継がれている。

Notes

- 1) 日本語訳は『聖書 新共同訳』による。
- 2) 2004年8月ギリシャの Athens で行われたオリンピックの最終競技、男子マラソンで一位を走っていたブラジル人選手に突然、道路端から飛び出した男が抱きつき、選手を路端に押しやった。この抱きつき男はアイルランド人で元司祭であった。逮捕されたこの男が言った言葉の出所が申命記のこの箇所である。この男は以前にもスポーツ競技の妨害をして逮捕された経験がある。キリストの証人として、複数の人に、複数回注目されておくことが必要だと妄想したらしい。
- 3) *OED* *mouth* I.3.i 参照
- 4) *OED* *mouth* I.3.j 参照
- 5) *OED* *mouth* I.4.b では1579年の初出例をあげている。
- 6) *put a song in one’s mouth* も1例もある。(Ps 40:3)
- 7) *OED* *mouth* I.3.1 参照
- 8) *speak with one’s mouth* は「口」を道具として話すと言う意味で、やはり、冗長な表現である。使用箇所は1Ki 8:15, 1Ki 8:24, 2Ch 6:4, 2Ch 6:15, Job 16:5, Ps 17:10, Jer 9:8; Jer 44:25 (*spoken with their mouths*)。
- 9) *OED* *mouth* I.2. d では *By (formerly through) the mouth of: through (some one) as spokesman.* と説明している。

References

- Biblia Hebraica Stuttgartensia*. (1997) Stuttgart: Deutsche Bibelgesellschaft.
- The Bible in English*. (CD-ROM) (1996) Cambridge: Chadwyck-Healey Ltd.
- The Bishops' Bible*. A facsimile of the 1568 edition. (1998) Tokyo: Elpis Co. Ltd.
- The Holy Bible*. A facsimile of the Authorized Version published in the year 1611. (1982) Tokyo: Nan'un-do.
- The Holy Bible*. An Exact Reprint in Roman Type, Page for Page of the Authorized Version Published in the Year 1611 (1985) Tokyo & Oxford: Oxford University Press / Kenkyusha.
- The Holy Bible, Revised Standard Version*. (1952) Minneapolis: Augsburg Publishing House.
- The Holy Bible, New International Version*. (1984) Grand Rapids: Zondervan Bible Publisher.
- The Holy Bible, Contemporary English Version*. (1995) New York: American Bible Society.
- The Jerusalem Bible*. (1968) London: Darton, Longman & Todd Ltd.
- Green, Jay P. Sr. ed. & tr., (1983) *The Interlinear Hebrew-Greek-English Bible*. vol. I~IV, Grand Rapids: Baker Book House.
- The Oxford English Dictionary*, 2nd ed. (1989) Oxford University Press, Clarendon.
- Davidson, Benjamin (1974) *The Analytical Hebrew and Chaldee Lexicon*. London: Samuel Bagster & sons Ltd.
- Strong, James (1982 repr.) *Strong's Exhaustive Concordance*. Grand Rapids: Baker Book House.
- 『聖書』新共同訳 (1987) 東京: 日本聖書協会。
- 荒井献、石田友雄 ed. (1989) 『旧約・新約聖書大事典』東京: 教文館。
- 田川建三 (1997) 『書物としての新約聖書』東京: 勁草書房。